

研究の概要

20 23 年 10 月 18 日

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名：	Conventional IVF由来1PNの直径は移植後経過に影響しない
代表研究者 (所属・氏名)：	IVFなんばクリニック 生殖技術部門 西野 奈緒美
研究の目的：	Conventional IVF(c-IVF)において、受精確認時に1前核のみの胚(1PN胚)がしばしば観察される。精子侵入後 6 時間程度で前核が形成されるが、c-IVFでは精子の進入時間を特定できない。そのため当院では c-IVF後の1PN胚を正常受精とし、良好に発育した場合は2PNと同様治療に用いている。以前に、同一症例の2PN胚の前核直径に比べ1.2倍以上の直径を持つ1PN胚の発育能は高く、前核の直径比は発育能予測因子になりえることを報告した。本検討は直径別での1PN胚由来の移植後経過を比較、後方的に検討した。
調査データ該当期間：	20 17 年 1 月 1 日 ~ 20 21 年 12 月 31 日
研究の方法 (使用する試料/情報等)：	2017年1月1日~2021年12月31日に当院でc-IVFを施行後、タイムラプスイнкуベータにて培養し、分割期胚または胚盤胞にて凍結保存、その後単一凍結融解胚移植を行った2304周期を対象とした。なお、1PN胚は前核直径30 μm以上(大)と30 μm未満(小)に分類した。内訳としては2PN胚(2234周期)、1PN胚(大)(49周期)、1PN胚(小)(21周期)であった。検討：1PN胚(大)、1PN胚(小)、2PN胚由来の移植後の生産率(=生産数/GS数)、流産率(=流産数/GS数)、出生児の体重、胎盤重量を比較した。
個人情報の取り扱い：	研究に用いる患者個人情報の保護を行います。研究報告により個人が特定されることはありません。
本研究の資金源 (利益相反)：	なし
お問い合わせ先 ：代表電話 ：担当者(部門・氏名)	IVFなんばクリニック 06-6534-8824 生殖技術部門 西野 奈緒美
備考	